

産業廃棄物処理計画書

平成34年5月17日

静岡県知事

川勝 平太 殿

提出者

住所 静岡県富士市大野新田332-1

氏名 興和株式会社 富士工場

工場長 横井 孝則

電話番号 0545-33-0590

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

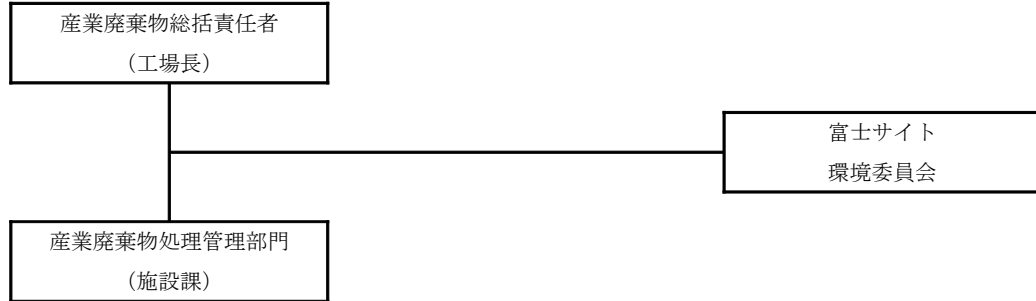
事業場の名称	興和株式会社 富士工場
事業場の所在地	静岡県富士市大野新田332-1
計画期間	2022年4月1日 ～ 2023年3月31日

当該事業所において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	製造業 > 化学工業 > 医薬品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 238億円/年
③ 従業員数	371名（2021年5月12日現在）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙（図1）の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和3年度）実績】								
産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
排出量	2.55t	1090.289t	206.05t	0.12t	8.69t	0.54t	0.952t	1309.191t
①現状	(これまでに実施した取組) ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。 【汚泥】 ・有機性汚泥：生産増産したため、廃棄量が増加した。 【廃プラ】 ・マスクの生産増産したため、廃棄量が増加した。 【水銀使用製品】 ・蛍光灯からLED化を促進。							
【目標】								
産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
排出量	2.5t	1014t	155t	0.1t	6.5t	0.9t	1t	1180t
②計画	(今後実施する予定の取組) 【汚泥】 ・有機性汚泥：生産量は前年度に対し減少することが予想され、廃棄量も減少することが予想される。 ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 【廃プラスチック類】 ・生産量は前年度に対し減少することが予想され、廃棄量も減少することが予想される。 ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・金属、ガラス（ガラス瓶、板ガラス、硬質ガラス）、陶磁器、乾電池類、水銀使用製品、汚泥（廃薬剤、有機性）、廃プラスチック類（RPF、焼却等）、廃油、及び燃えがら等 ・社内規定である「廃棄物処理規定」に基づき分別収集の徹底を図っている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・社内規定である「廃棄物処理規定」の周知徹底を継続する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—
	(今後実施する予定の取組)	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	919.939t	—	—	—	—	—	919.939t
	(これまでに実施した取組) ・ 自社施設（脱水機）による減量化。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	850t	—	—	—	—	—	850t
	(今後実施する予定の取組) ・ 自社施設（脱水機）による減量化継続。								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
	全処理委託量	2.55t	239.87t	206.05t	0.12t	8.69t	0.54t	0.952t	458.835t
	優良認定処理業者への処理委託量	2.55t	166.45t	206.05t	0.12t	0.57t	0.54t	0.952t	377.295t
	再生利用業者への処理委託量	2.55t	239.87t	206.05t	0.12t	8.69t	0.54t	0.952t	458.835t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。								

産業廃棄物の中間処理に関する事項

②計画		【目標】								
		産業廃棄物の種類	燃えがら	汚泥	廃プラスチック類	乾電池	ガラス	水銀使用製品	複合材	合計
		全処理委託量	2.5t	226t	155t	0.1t	6.5t	0.9t	1t	392t
		優良認定処理業者への処理委託量	2.5t	160t	155t	0.1t	0.5t	0.9t	1t	320t
		再生利用業者への処理委託量	2.5t	226t	155t	0.1t	6.5t	0.9t	1t	392t
		認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
		(今後実施する予定の取組) ・生産量は前年度に対し減少することが予想され、廃棄量も減少することが予想される。 ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル(埋立量の削減)を継続実施。								

図1 産業廃棄物の一連の処理の工程

